

JR美祿線災害復旧対策調査特別委員会

- 1 日 時 令和6年10月3日(木曜日)
午前9時30分～午前10時28分
- 2 場 所 委員会室
- 3 出席委員 村田弘司 委員長 石井和幸 副委員長
竹岡昌治 委員 山中佳子 委員
三好睦子 委員 岡山隆 委員
秋枝秀稔 委員 杉山武志 委員
戎屋昭彦 委員 藤井敏通 委員
末永義美 委員 山下安憲 委員
石井和幸 委員 井上敬 委員
竹下駿 委員 三善庸平 委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 委員外出席議員
荒山光広 議長
- 6 出席した事務局職員
岡崎基代 議会事務局長 石田淳司 議会事務局議事調査班長
寺埜真輔 議会事務局庶務班長
- 7 説明のため出席した者の職氏名
志賀雅彦 副市長 佐々木昭治 総務企画部長
中島紀子 地域振興課長
- 8 会議の次第は次のとおりである。

午前9時30分開会

○委員長（村田弘司君） おはようございます。それでは、ただいまより、JR美祢線災害復旧対策調査特別委員会を開会をいたします。

議長、報告等ございましたら。

○議長（荒山光広君） 特にございませぬ。よろしくお願ひします。

○委員長（村田弘司君） それでは、早速ではありますけれども、調査事項に入ります。

本日は、JR美祢線に関する状況について確認をするために、執行部に出席をしてもらっております。

JR美祢線災害復旧対策室の動向について、執行部より説明を求めます。

○地域振興課長（中島紀子君） では、JR美祢線災害復旧対策室の動向について御説明いたします。

前回6月の特別委員会では、JRから提案された地域にふさわしい公共交通について議論を行う新たな部会の設置について、美祢線の復旧に向けた議論を前に進めるためにも、市としては受入れざるを得ないという考えであることを、市長からこの場で議員の皆様にお伝えいたしました。

その後、7月30日に行われたJR美祢線利用促進協議会臨時総会の場で、部会の設置が全会一致で承認され、その名称を災害――すみません。復旧検討部会として、部会では、鉄道と鉄道以外の輸送手段による復旧の検討・整理を行うこととなりました。

本日は、第1回目の復旧検討部会が8月28日に開催されましたので、その内容について御報告いたします。

資料を御覧ください。

第1回復旧検討部会という資料です。

資料の1ページです。

部会の構成員は、沿線3市、県、JR西日本の課長級としています。必要に応じてオブザーバーとして、学識経験者として山口大学の榊原教授、中国運輸局等を招聘して進めていきます。

資料の2ページを御覧ください。

部会の所掌事務です。

部会では、鉄道と鉄道以外の輸送手段による復旧について、利便性や復旧費・運行費等のコスト、災害体制等の観点から、輸送手段別のメリット・デメリットを調査・検討し取りまとめます。

資料の3ページを御覧ください。

当面の部会のスケジュールのイメージを記載しております。

部会は、およそ2か月に1回のペースで開催し、検討結果につきましては、来年5月の利用促進協議会総会で報告する予定です。最終的には、部会で取りまとめた結果を参考に、関係自治体間の協議を経て、対応方針を決定していくこととなります。

資料の5ページを御覧ください。

鉄道による復旧の整理・検討に当たっては、JRから復旧費や運行経費、復旧に対する考え方を示してもらうことが議論の入り口となるため、このたびの部会では、5ページから11ページの資料がJRから提供されました。

6ページを御覧ください。

JRから、JR単独での鉄道としての復旧とその後の運営の継続が難しいという見解が改めて示された上で、鉄道で復旧する場合の復旧費用が——すみません。7ページを御覧ください。

復旧費用が河川の改修が計画どおり実施されることを前提として、概算で約58億円以上、工事期間が約5年程度ということが示されました。

工事費の内訳としましては、流出した第6厚狭川橋梁の改築費が約22億円、その他被害を受けた設備の機能回復に要する費用が約10億円、厚狭川に架かるほかの10橋梁の橋脚数26基の補強工事に約26円という積算となっております。（発言する者あり）26億円、すみません。

資料の8ページを御覧ください。

美祢線の運行に係る費用の内訳として、2020年度から2022年度の3か年の平均の収支が約4.7億円の赤字であることが示され、9ページと10ページに、運行に関わる業務内容や費用構造等の中身についての説明の記載となっております。

資料の11ページを御覧ください。

鉄道の国の災害復旧助成制度についての説明となります。

これは、鉄道軌道整備法の補助制度として、大規模災害を受けた鉄道事業者が施

工する災害復旧事業に要する費用の一部を国が補助するものです。

補助要件は、美祢線の場合は、黒字会社の赤字路線ということで、右の赤枠のほかに該当します。

この国の補助事業を使って、鉄道を復旧する場合の補助率は、国が4分の1、地方自治体が4分の1、鉄道事業者であるJRが2分の1となっておりますが、先ほどJRが提示した概算復旧費には、被災していない橋梁の補強工事に要する費用も入っておりますので、補助対象経費がどこまで該当になるかは、次回の部会までに、国に確認することとしております。

また、この表の下の米印のところですが、事業構造の変更による経営改善の見通しにより、補助割合を3分の1以内に引き上げることが可能との記載があります。

この事業構造の変更とは、上下分離のことを指しており、例えば、線路や施設を自治体が持つこと等になった場合、補助率が国3分の1、地方自治体3分の1、JRが3分の1となります。

次に、復旧後の利便性に向けた調査・実証について御説明いたします。

資料の13ページを御覧ください。

復旧検討部会では、鉄道や鉄道以外の輸送手段による復旧の整理・検討にあたり、様々な観点での復旧後の利便性向上の効果を検証するため、代行バス増便による利便性向上の効果の実証を行うとともに、利用者や利用者以外の住民アンケート等を実施し、その利用人数等を調査いたします。

この調査事業は、JR美祢線利用促進協議会が実施主体となり、国の補助事業である地域公共交通調査等事業を活用して行うもので、実証期間は、今年10月の1日から来年の3月21日までとなっております。

資料の15ページを御覧ください。

昨年行われた美祢線の復旧後の利用促進ワーキンググループにおいて、利用促進に係る様々な課題を整理しました。

今回の実証実験のメニューは、それらの課題解決のために、ポイントを絞って行うものです。

実証実験の内容につきましては、周知のためのパンフレットを作成しておりますので、そちらで御説明いたします。

資料を通知いたします。

ページをめくっていただきまして、主な実証メニューといたしましては、現在運行している代行バスに加えてバスを増便し、運行頻度を高めます。

実証期間中は、平日で最大10便増便しています。この増便バスは、速達性を高めるため、中央駅のための停車の快速運転を行います。国道316号線を運行しますので、厚狭、美祢間で言いますと、9分ほど所要時間が短くなります。

また、増便バスは、厚狭駅での新幹線との接続を考慮した時間帯に設定し、美祢線と新幹線の乗換え機会の拡大を図ります。

また、先ほど述べましたが、この実証事業では、利用者や地域の方々のニーズを調査するアンケート等を実施しますが、実施時期につきましては、増便した代行バスの利用者等の満足度を確認する観点から、運行が始まって、一定期間を経て実施する方向で考えております。

内容等については、次回以降の復旧検討部会で協議することとしております。

今回の部会の開催時期につきましては、今月中をめどに開催するよう現在調整中です。

説明は以上です。

○委員長（村田弘司君） ただいま説明が終わりました。今の説明に対し質疑はありますか。三善委員。

○委員（三善庸平君） 現時点での代行バスによる乗車数だったり、売上げとか、どれぐらい実施してる上でのコストがかかっているとか、そういう数字っていうのは分かりますか。

○委員長（村田弘司君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） ただいまの御質問にお答えいたします。

代行バスのコストにつきましては、JRが鉄道の代行ということで運行しておりますので、詳しいコストについては、こちらでは把握しておりません。

利用者数に関しましては、鉄道で、ちょっと今詳しい人数を持ち合わせておりませんが、鉄道が走っていたときよりもバスになって、利用は幾らか減っている状況であります。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 三善委員。

○委員（三善庸平君） これからまた快速便とか実証実験があると思うんですけど、

そこら辺の数字は、今後、明らかにしていけないっていう感じですか。

○委員長（村田弘司君） 中島市地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） ただいまの御質問にお答えします。

数字につきましては、利用者のニーズを調査する実証になりますので、その調査の中で、しっかりと利用者のニーズも調査いたしますし、人数等もしっかりカウントして把握していきます。

すみません、先ほど利用者が減っていると申しましたが、高校生の通学の面で申しますと、成進高校の1年生の入学者数が大変今年度多かったものですから、その分の利用者数は増えております。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 中島地域振興課長、今の実証実験中の数値ですよ、それはおいおい分かってくると思いますが、次そういうふうな数値はいつ、この議会、特別委員会で報告してもらえますか。中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） 実証実験につきましては、3月の21日までが期間となっておりますが、途中経過を報告させていただきたいと思いますので、今ちょっと始まったばかりですが、10月1日に、厚狭駅で乗られる方の高校生の声等をお聞きしたところ、やはり増便で助かったというか、こういうバスがあって、ありがたいという御意見も既に聞いておりますので、途中経過につきまして、特別委員会のほうでもしっかり報告をさせていただきます。

○委員長（村田弘司君） ぜひとも分かり次第、途中経過をこの場で、（聞き取り不可）してもらいたいと思います。

ほかに御質問ありますか。戎屋委員。

○委員（戎屋昭彦君） 今の三善委員とちょっと似たような質問なんですけど、最初頂いた資料で、復旧後の利便性の向上ということで、今、代行バス増便して、人数を調査してっていうことで——いうことになってますけど、当然、増便については、PRは、当然私もライフビジョンとかいろんなことで、それから仕事で今分かっているんですけど、その周知と他市、山陽小野田、長門の方々がこれを利用するという、大変すみませんけど、他市のほうのPR含めて、これを利用者が増えないとなかなか復旧も難しいと思うんですけど、その辺りについての広報とかお知らせっていうのはどのようにしておるんですかね。

○委員長（村田弘司君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） ただいまの御質問にお答えします。

他市の長門市、山陽小野田市につきましては、長門市駅、厚狭駅にパンフレットとポスターを掲示しております。

あと、通学の範囲の高校ですね、高校に関しましては、それぞれ長門市、山陽小野田市からこういった事業が始まるということは通知しておりますし、今後——すみません。今ちょっとパンフレットがやっと高校生に配布する分が出来上がってきますので、そちらは高校にお配りして、周知徹底を図っていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 戎屋委員。

○委員（戎屋昭彦君） 今パンフレットで周知ということですが、当然これについては、山陽新幹線、観光客等もいろんな、何て言うんですかね、ビジネスの方もいらっしゃると思うんです。その辺りっていうのは、駅、当然山陽小野田というか、厚狭駅等についてのPRも同じようなパンフレット等とかで周知はできるんですかね。

○委員長（村田弘司君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） 駅での周知ももちろんですが、新幹線の（聞き取り不可）電子の掲示があると思うんですけど、あちらのほうにも、実証実験でバスが増えているということですね、新幹線の中でも周知を流すようにしております。

以上です。

○委員長（村田弘司君） ちょっと私からも、今の関連してお伺いしたいんですけど、今戎屋委員ほうから、観光客という言葉が出ましたけれどね、そういうような関係、ネット等を通じてSNSへ周知をして、全国に鉄道ファンたくさんいらっしゃって、今休線になってる美祢線に対する関心も非常に高いというふうに分かってます。その方々に対するこういうふうな代替バスでの実証実験の周知等はどうか考えてらっしゃいます。中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） 御質問にお答えします。

JR美祢線利用促進協議会で、「乗ろうよ！美祢線」というホームページを作成しておりますので、そちらは鉄道ファンの方もたくさん見ていただいております。そちらに、この実証実験のことはもう載せておりますので、そちらでの周知を図ると

ともに、あと市のXですとか、そういったところでも、広くSNSでも周知を図れるようにしていきたいと考えております。

○委員長（村田弘司君） ちょっとごめんなさい。冒頭、何て言われた。

○地域振興課長（中島紀子君） 乗ろうよ！美祢線。

○委員長（村田弘司君） 乗ろうよ！美祢線。

○地域振興課長（中島紀子君） 乗ろうよ！美祢線というホームページがございます。

○委員長（村田弘司君） ちょっとね、年を重ねて耳がよう聞こえんから。

ほかにありませんか。石井副委員長。

○副委員長（石井和幸君） ちょっとこれ実証実験とちょっと関係なく、今現状の駅舎とか線路周りのちょっと草がもう結構長々と生えています。その辺ちょっと、刈ってもらうなりのちょっと要望、もうこれ要望になるんですけど、その辺をちょっとどのように考えておられるか。早かったですか、僕。

○委員長（村田弘司君） せっかく質問してもらったから、どうぞ。

○副委員長（石井和幸君） いいですよ。後でちょっといいです。

○委員長（村田弘司君） 石井副委員長は、こういう方で、非常に厳しい質問あるかもしれません。

ちょっと私のほうから、また、もう1点質問したいんだけど、実証実験、先日そちらのほうからの説明で、観光客にとって、この美祢線、例えば於福駅から弁天池、秋芳洞・秋吉台に抜けて、結構何て言うかな、ルートがちゃんとないと、その辺が観光客を引きつけるものとならないということだったんですが、だから今回の実証実験に併せて代替バスを、そういうふうな便をやってみようじゃないかという話があるというのをそちらのほうからお伺いしたと思うんですが、その辺の実証試験についてはどういうふうに今話が出てますか。中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） 通学の利便性はもちろんですけども、委員長言われましたとおり、観光客というところの利便性のよさも図っていきたくて思っておりますので、ほかの交通との連携ということで、あんもないと号の土日祝便があるんですけども、そちらをこちらの快速便、増便した分は接続がいいように、接続がいいようなダイヤにしておりますので、代行バスで来て、美祢のあんもないと号に乗り継いでもらって観光地に行っていただくという、そういったダイヤにしております。

○委員長（村田弘司君） 今重ねてお伺いするんだけど、そしたら今の快速便を出しますよね、今回実証実験で。それに合わせた形で、今のあんもないと号、どう考えておられるということですか、変更。中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） あんもないと号のダイヤ——すみません。あんもないと号のダイヤ自体は変更しておりませんので、快速便のダイヤをあんもないと号の土日祝に乗り継げるように変更しております。

○委員長（村田弘司君） あんもないと号のほうに…

○地域振興課長（中島紀子君） 併せて。

○委員長（村田弘司君） 快速バスを併せて。

○地域振興課長（中島紀子君） 併せております。で、もう少し後にはなるんですけども、代行バスのほうに——とですね、秋芳洞ですとか、観光地に使える割引のチケットを読み込めるようなものを提示するようにしておりますので、今準備しておりますので、そちらを使って、美祢市の観光地、長門市もですけど、そういったところに行っていただけるような試みを、秋には、もう秋ですけど、改正したいと思っております。

以上です。

○委員長（村田弘司君） ほかにありませんか。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） 先ほど連絡ありましたけど——報告ありましたけど、鉄道での復旧費等についてということで、もう河川改修工事が予定どおり行われたとして、まず前提とした試算で、今の美祢線が復旧する場合、復旧費が約58億円以上ということの説明がありました。

問題は、厚狭川橋梁とか、その他たくさん橋梁等もあります。こういったところについて、従来と同じようなただ復旧を——同じような復旧だったら、またですね、私は、また今後とも温暖化で、河川の大雨が出た場合、本当にまた同じことを繰り返すようなことがあってはならないと思っておりますし、それでは何の意味もありません。だから、その辺については、従来の橋梁の同じような設計であればちょっと厳しいんじゃないかと思えます。

それについては、まだ、具体的にそういった橋梁等のより進化したものに橋梁をするとか、その辺は、まだ決まってないという段階ですか、どうでしょうか。

○委員長（村田弘司君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） ただいまの御質問にお答えします。

工事の内容につきましては、まだ、JRのほうからも提示は受けておりませんので、金額のみの提示ですので、詳しい内容は、まだ、こちらのほうは分かっておりませんが、平成22年に被災して流出した第3橋梁があるんですけども、そちらはもう橋桁のない橋梁になっておりますので、今回改築ということで、もし、橋を架け替えるということになりましたら、そういったことも含めて、しっかり災害に対応できるものを架けられると認識しております。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 岡山委員。

○委員（岡山 隆君） そういう形になるとですね、相当な改修費だけでは、私は済まんような思いがあります。その辺が58億でなければいいと思っておりますけど、なかなか……

○委員長（村田弘司君） 岡山委員、JRサイドの質問じゃないと、ここでちょっと答えられんと思います。

○委員（岡山 隆君） 分かりました。それと、美祢線の費用が、営業収益が5,000万円、そして、営業費用が5億2,000万ということで、営業損益は4億7,000万円、こういう形で、鉄道を運行するに当たっては、やっぱり厳しい状況があったんだなと思っております。

今後、今からバスの運行で、このJRバス路線での収益というのは、まだ分からんところもありますけれども、これと大体同等な形に運行費がなってくるんかどうか、この辺分かりませんよね。答えていいです。

○委員長（村田弘司君） いいですか。ほかに質問ありますか。藤井委員。

○委員（藤井敏通君） 当面のスケジュールっていう3ページですか、ございますよね。それで今後、来年の5月までに、鉄道による復旧の整理・検討、鉄道以外のものによる復旧の整備・検討というふうになってます。

鉄道以外のバスで、実際に実証実験というか、走らせみてっていうのがあるんですけども、鉄道による復旧の整備・検討って、何か具体的にされるんですか。もう、JR西日本のまず美祢線に対する当社の考え方というところを見ますと、もう明らかにもう無理だ、もうやらないよっていう意思が明確ですよ。

にもかかわらず、5月までに、何らかのその鉄道の検討というのがあるとするれば、

どういうことを鉄道として、何か検討されるんですか、何か聞かれていますか。

○委員長（村田弘司君） 答えられますか。中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） ただいまの御質問にお答えします。

JR単独での復旧は難しいということをJRからは再三言われておりますが、自治体の立場としては、あくまでも第一は、JR単独での復旧ということを求めています。ただ、それですと、議論も前に進みませんし、そういったことで、鉄道以外のもの、輸送手段を検討するということですが。

鉄道での復旧ということになりますと、JR単独での復旧以外にも上下分離、先ほど申し上げましたが、列車はJRが運行しますけども、例えばその線路ですとか、そういった駅舎ですとか、施設を自治体が持っている事例も他県でございますので、そういった上下分離ということの調査・検討ということで、復旧部会で決定したものではありませんが、そういった事例もございますので、そういったことになった場合にどういった費用が発生するのかとか、そういったことを検討したいと考えております。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 我々の特別委員会っていうのは、あくまでこの地域を疲弊させないために、JR沿線の大切さを認識して、復旧に向けて動いておると。しかし、どうしてもいろんな理由によって、それがかなわないのであれば、それに代わるものを必ず我々地域として、市として、提示する固い信念の下に、この委員会が成り立っているということをひとつ皆さん、共通認識として持っていただきたいというふうに思います。ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） 質疑なしと認め、質疑を終わります。

それでは、本特別委員会では、調査項目に、公共交通機関としてのJR美祢線の在り方というものを含め、調査・研究をするということになっております。

今もちょっとそういう話も出ましたけれども、委員の皆さん方から持っておられる意見、また、例えばご要望等あればですね、今度復旧検討部会、中島地域振興課長、また次出られるようですから、今日ここでいろんな意見等出ましたら、それを次の検討部会に話をつないでもらって、全体のこれに関わる、美祢線に関わる全体の共通認識として持ってもらいたいと思いますので、どうぞ忌憚の

ない御意見をここで出していただきたいと思います。

ということで、先ほど、石井副委員長に質問を留保してもらってましたから、第一番にひとつよろしくお願いします。石井副委員長。

○副委員長（石井和幸君） 今、駅周りど踏切の草がちょっと伸びっぱなで、大変ちよつと視界とかも悪いので、ちよつとその辺の草刈りのほうをちよつとJRのほうに要望していただければと思います。お願いします。

○委員長（村田弘司君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） JRに草刈り等の景観の要望ですけども、このたび、あまりにもやはり運休中で、草も伸び放題で景観も悪いということでしたので、そちらを要望したところ、美祢駅の周辺とあと於福駅周辺、あと石入から於福駅までの316沿い、あと厚狭、厚保——すみません。厚保駅周辺ですね、そういったところは、JRが草刈りをされました。

ただ、沿線ほかのところはですね、もうJRもちよつと手が回らなくてですね、草刈りができていない状況でして、引き続き景観整備については、こちらも要望していこうとは思っておりますが、なかなか厳しい状況ではあります。

○委員長（村田弘司君） いいですか。戎屋委員。

○委員（戎屋昭彦君） その他で言おうと思って、石井副委員長が言われたんで、実は私、美祢線ずっと道路沿いから線路を横断してる道路、踏切ですよ、その辺り今日も、この前も見て、今日も見てきましたけど、今中島課長に言ったら、美祢駅の周りとか厚保、於福とか、ちよつと刈られたということでお聞きして、確かに駅の周りは、確かに法面もきれいになってます。

それは、地元の方も含めてかも分かりませんが、今美祢駅の周りって言われましたけど、美祢駅の周り刈られた、いつ刈られたか分かりませんが、線路の周りが駅のホームから見ても、やはり道路を通るたびに、ちよつと通学路になってますんで、その辺りとそれと重安駅、これは当然バスが、代行バスが入ってると思うんですけど、石井自動車さんのところ通って入るんですけど、踏切狭いんですけど、両サイド、草が伸び放題で、以前ちよつと聞いたら、あそこで事故があったと、今回不通になってからじゃないですよ。以前、草が伸びてて、事故があったということをお聞きしたんで、やはりせめて代行バスが通るところの草は、先ほど刈られたというんですけど、また刈っていただきたいと思うし、それと、道の

駅の前の於福を渡る道路のところも、それから水神に行くところも、両サイドが伸びてますし、その辺り、やはり観光客がかなり今から今後も美祿に来られると思うんで、やはりその辺り、JRに強く要望してもらえばなど。

あるいは私、何をそう言うかという、私地元にはUBE三菱、民間の会社ですけど、美祿駅からずっと線路に入っていました。年間に三、四回草刈りして、ほとんど美祿駅の周りもほとんど草がないという状況なんで、やはり特に強く要望してもらえたいと思います。

それと、もう1点よろしいですか。

○委員長（村田弘司君） どうぞ。

○委員（戎屋昭彦君） これはちょっと突拍子もないお話になるんですけど、先ほど資料を見せていただいたら、復旧費が概算ですけど58億以上ということで、JRがやる場合が2分の1、民間がやる場合は3分の1って表に載ってましたけど、当然、費用が非常にかかるということなので、私はちょっとこれ、あくまでも民間的な考えで言おうと思うんですけど。

例えば、市の職員でも退職する、退職引当金というのを積み立てていくわけですけど、これJR復旧——先ほど村田委員長言われたように、復旧が基本でということと言われると思うんですけど、バスの費用とJRの費用、先ほど岡山さん言われてまして、約4億数千万の赤字ということで、現状、大変失礼な言い方かも知れませんが、それほど美祿線走っていないんで、赤にはなっていないかと思いますが、それは別としまして、美祿線復旧するために、今から5年、10年かかるわけですから、美祿線復旧引当金という形ですね、JRさんのほうに積立てをしていただいて、それを今後の復旧費に充てていただくということはどうかなという、おかしい質問かも知れませんが、ちょっと要望として出して。

○委員長（村田弘司君） 中島課長、今の話はちゃんと伝えられます。中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） 御意見ありがとうございました。景観整備も含めて、次の復旧検討部会でJRも出席しますので、しっかり報告して伝えていきたいと思っております。ありがとうございます。

○委員長（村田弘司君） それと、私も1点よろしいですか。

美祿線全線復旧に向けてお願いをする、我々も努力をするということは、根本的

には変わりはないんですけども、例えば、美祢から長門まで部分先行、もうほとんどこの間の被害受けてませんのでね、部分運行とかいう話は出ておるんか。それとも強い要望があれば、それが可能かどうかという話はこの検討部会でも出せますか。中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） 美祢駅から長門市駅までの部分運行につきましては、委員の皆様からもそういった御意見ですとか、あと地域の皆さんからもそういった御意見をお聞きしておりますので、JRには、こちらからも何度も要望いたしました。が、復旧方針が決定していない今ですね、部分運行をすることはないという回答をJRからは今もらっております。

ですが、次の復旧検討部会で、特別委員会で、またそういった意見が出たということ。をJRに伝えることはできますので、そこは伝えていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 大変でしょうけども、言われたから、はいそうですかという形で聞くだけじゃなしに、幾ら何度も言って、ひょっとしたらそれで局面が変わる可能性もあるんで、JRには合わせるけれども、ひとつよろしくお願ひしたいと思っております。岡山委員。

○委員（岡山 隆君） ちょっとその他のところで、JR美祢線の災害復旧対策、それで今いろいろ説明、特別委員会、説明ありました。

それでですね、やっぱり美祢市市民がこのJR、この美祢線の災害復旧、これについて、市民の皆さんがどのように見ていくかってことは、非常に私は重要なことと思っております。

それで今後、今日の特別委員会等を市民の皆さんに見ていただいて、今後ともいろいろ情報、復旧に向けての情報発信ということは大切と思っております。

それで、そういった市民の皆さんにも、これから何回かアンケート調査をしてですね、市民の皆さんの任意が一体どこにあるんかと、それを私はアンケートで調査していくことが必要と思っておりますので、どうか、それについてよろしく。

○委員長（村田弘司君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） 先ほど御説明しました実証事業ですね、実証実験なんですけども、あちらは代行バスでの実証とは別に、今岡山委員おっしゃられました市民のニーズを調査するアンケートと、あと、インタビューとアンケートを行う

予定ですので、そちらもまた結果等は、特別委員会でも御報告させていただきます。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 井上委員。

○委員（井上 敬君） 先ほど石井副委員長言われたように、線路沿いの草刈りですね、これ具体的に何箇所かやられたということなんですが、これ恐らく勝手に入って刈ることはできないと思うんですよ。市民が例えば、もうこうこうだからって言っても刈ることはできないと思うので、本来JRがやるべき理由があるんじゃないかなと思うんですが、恐らく全てをやるのは本当に大変な状況だと思うので、具体的にここを刈ってほしいっていうその場所をきちんと伝えながら、必要なところは順番でもいいのでやってもらうぐらい、市民から何か、どこから声を上げるか分からないですけども、要望して、具体的にポイントついて、ここは刈ってほしいということを要望していくべきじゃないかなと。

でないと本当に、その要所要所だけ刈ったのもういいでしょうって感じになってもらっても、本当に市民は困るので、ぜひ、そういう具体的な要望してもらえたらなと思います。

○委員長（村田弘司君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） 御意見ありがとうございます。先ほど申しました316沿い——於福までの316沿いですとか於福駅、厚保駅といったところは、今回、ここまずは刈ってくださいっていう要望を絞ってらして、刈って、ありがたかったということになっておりますので、ただ1回刈ってもですね、また、すぐ美祢駅のところもですけど、また伸びておりますので、要所要所で、こちらもこの部分はあるところ、特に目立つところですね、本当は全部刈ってもらいたいんですけど、なかなか難しいので、そういったところを決めて要望していきたいと思います、引き続き。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 今のことに関連してですけれども、先週土曜日に、於福で美祢線マルシェありましたから、この土曜日、今度厚保でやられます。人を集めますんでね、来ていただくんで、その周辺をきれいするということもありましたんで、それに併せて、JRさんに刈ってもらいました。しかしながら、それだけで足りてないんで、実は於福でも、地元の、うちも含めてね、近所の者が一生懸命草刈ってま

す。

ただ先ほどね、井上委員が言われたように、JRサイドは、ここ刈るから入ること許されるんですよ。だからそこをちょっと外れたところをみな刈ってますけどね。でないと待ったんじゃあ、もうどうしようもないぐらいな状態になるんで。

だから中島課長、さっき井上委員も言われたけど、JRサイド、予算の関係があるからってよく言うんですよ。私も長門市駅まで行って、大分要望しました、刈ってくれて言って。分かりましたっていう言葉を聞くんですが、なかなか分かってないんですよ、すぐ行かないんでね。その辺も併せて、強く要望をお願いいたしたいというふうに思います。三好委員。

○委員（三好睦子君） 草刈りの件ですけど、まず、議員がボランティアで刈ったらどうでしょうか。職員さんにもボランティアで活動どうかということが、先般、議会でありましたけれど、一般質問にもありましたけど、議員が——本当に草刈りってだるいですよ。きつけれど、我が家も大草なんですけど、草刈りが議員活動の一環とすればボランティアで刈ることもできるので、JRに要望も大事ですけど、議員が率先して刈ると、そういうのは——今の316の見えるようなところ、刈れそうなところを刈るとかいうのはどうでしょうか。

○委員長（村田弘司君） 三好委員、今話が出ているように、線路の中に入ってますよね。やれないんですよ。やりたくてもやれないんですよ。だから、もう歯がゆくてしょうがないんですけども、これは要望するしかないんですよ。

だから、いかに議員ついででも、線路の中に入って刈ることできないんですよ。でしょう。刈れませんよね、線路の中ね。中島課長。

○地域振興課長（中島紀子君） 以前は、JRの職員の方が立ち合えば刈ることができたんですけども、今でもこちらからもですね、やっぱり地域の方、やはり地域の方からも自分たちで刈るので、JRが立ち会ってもらえれば刈れるってということなので、要望してもらえないかという御意見をいただくんですけども、そういったことをJRにも伝えておりますが、その立ち合う職員が今なかなか配置ができないということで、ちょっとそこも難しいという返事をもたらしておりますので、ただ、今委員さんもおっしゃられましたように、刈れるものなら、みんなで刈りますよってという声もたくさん届いておりますので、そちらはJRのほうには伝えていきたいと思っております。

○委員長（村田弘司君） 先ほどの話と一緒にやけど、懲りずにどんどん言わないと。

今の中島課長の言われた件ね、この於福でもそれ言いました。職員が、JRの職員がちょっと立ち合ってくれれば刈れるって言うんやけど、来てくれません。とんでもない人手が足りてないから、そんな暇はないということで無理です。

それとね、社会総参加活動があるでしょう。そのときに、線路の中刈れないけれども、その中にまざって、議員の方々もね、一緒にその日はきれいにするという努力はしていく必要があるかとは思いますが。ほかにありますか。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） これ、ちょっとお尋ねなんですけど、いわゆる実証実験をやるのは、復旧後の利便性向上に向けた調査って書いてあるんですよ。したがって、アンケート、インタビュー調査、この辺は美祢線そのものの存続の在り方、そういうものを調査するんじゃなくて、復旧後の利便性向上に向けた調査って書いてあるんですが、そっちのほうをやられてるんですか。

当初の災害のところもあつたでしょう。黒字の会社で、路線が赤字のところだけは云々かんぬんって書いてありますよね。そうすると、58億使うということになると100年かかるんですよ。とてつもない数字がぽんと出てるんですが、その辺のお考えはどうなんでしょうかね。これ申し訳ない、質問のとき言わなかった。よろしく。

○委員長（村田弘司君） どうですか、答えられますか。中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） ただいまの御質問にお答えいたします。

アンケート調査につきましては、もちろん代行バスの増便等、快速便等、乗っていただいた方にお聞きして、復旧後にどういった、鉄道で復旧するにしても、ほかの輸送手段にしても、どういった交通網というかがふさわしいかということもお聞きしますが、それとは別に、復旧後の利用促進という面とはまた別に、美祢線の地域にとっての在り方というか、そういったところも、皆さんの御意見を広く聞きたいと思っておりますので、利用者ももちろんですけども、利用されていない、今利用されていない方にもなぜ利用していないのかということも含めて、広く意見を聞くニーズ調査を行う予定でおります。

調査内容につきましては、まだ、次回の部会以降で決めていきますので、もし特別委員会のほうでもアンケート調査等、こういったことを聞いたほうが良いという御意見がいただけましたら、そちらも検討部会のほうで、また協議していきたいと

考えております。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 今申し上げたのは、調査実証の2番のことを申し上げたんですが、1番見ていただきたいと思うんですね。もともと対象者が、利用者を対象にしての話でしょう。そう書いてありますよね。何ページ——13ページ。だから、利用してる方の分析をやって、アンケート調査やって、インタビューもそうなんですが、いわゆる沿線の人たち、一般の人たち、やっぱりそれも巻き込む必要があるんじゃないかと思うんですね。現在利用してる人は、全線復旧というのは分かり切っていると。だから、そこからでないと、利用してる人だけを対象にしてアンケートをやるんじゃないかって。

以前、議会がこの委員会をつくったときですね、在り方を検討しようって言ったら、待ったがかったんですね。それで、やらなかったんですよ。だから、市民の人が何であんたらやらんのかって言われたけど、待ったがかったからやらないと私はもう言い切りました。また、同じことをやってるんですね。利用者を対象にだけアンケート調査やって分析したって、私はちゃんとした答えは出てこないと思うんですが、いかがなんですか。

○委員長（村田弘司君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） すみません、ちょっと私の説明不足でありました。

資料の13ページなんですけども、13ページの3番のところにですね、アンケートの調査対象を記載しております。

で、利用者ももちろんなんですけども、利用者以外の沿線の方にもアンケートを実施しまして、美祢線の沿線の方、沿線でない方もですね、公共交通に求めるニーズといったそういった調査を行う予定ですので、利用者以外の方にも御意見を広く聞くアンケートをしたいと思っております。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） それでね、住民アンケート等を実施して書いてあるんですよ。だから、どの辺の範囲をしようとされてるんですか。美祢線沿線の住民の方という意味ですか。

○委員長（村田弘司君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） 御質問にお答えします。

アンケートのちょっと調査内容はですね、次回以降の部会で詳しく協議していくので、まだ確定ではないんですが、地域の方っていうのは、沿線の方を中心にと考えておりましたが、ただ美祢市内の沿線でない方もたくさんいらっしゃいますので、そういった方にも公共交通の美祢線の在り方ですとか、公共交通に求めるニーズを調査するという意味で、沿線以外の方にも調査をしたほうがということであれば、そこは、広く範囲を広げて調査することが可能です。

○委員（竹岡昌治君） 最後です。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） いや、何でそう申し上げるかということですね、例えば上下という形になったときに、いわゆる市の掃き出しをやんにゃあならん、そうなることですね、沿線だけの利便性のことを考えるだけじゃなくて、美祢市全体のどうやるかという、いわゆる税の公平性の問題もありますからね、その辺の配慮をしながら、調査対象をどうするのか。それから、どういうアンケートを取ろうとするのか。また、利用促進協議会で諮られて、我々のほうにもフィードバックしてもらえますか。

○委員長（村田弘司君） 中島地域振興課長。

○地域振興課長（中島紀子君） 御質問にお答えします。

竹岡委員のおっしゃられるとおりですね、もし、上下分離ということになりますと、費用負担ということも、まだ、そういった話にはなっておりませんが、出てきた場合に、美祢市全体に御意見を聞く必要があると思っております。

ただ、美祢線沿線でない方もですね、例えば今、美祢青嶺高校に通学する生徒さんが減っているということで、先日の一般質問でも、山中議員のほうからも言っていたので、南北の交通軸というところは必ず必要だと思っております。

ですので、沿線でない方、実際おられないかもしれませんが、その交通軸がもしなくなってしまった場合に、美祢市のほう、高校の存続も含めて、大変影響を受けることにはなりますので、そういったことも含めて、広く御意見を聞くということは必要だと思いますので、アンケートのこれから中身を検討していきますけど、今おっしゃっていただいた御意見を取り入れて、また、アンケートにしたいと思っておりますし、その結果についても、この特別委員会のほうでも、しっかりと御報

告をさせていただきます。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 今、高校生の通学の話がされたんですね。いわゆる公立高校、青嶺高校の存続というところまで話がいったんですが、私はこのまんまの状態で行きますと公立高校はなくなると。なぜかといったら、私立高校が私立高校ですが、ですね、もう美祢市内だけでも、他市からバスで全部送迎やってるんですよ。子どもの奪い合いが起きてるんですよ。

そうすると、どういうことが起きるかっていうと、美祢線の利用促進とか、それからほかのバスの運行じゃなくてですね、もう家から学校、学校から家までというそうした名前挙げられませんけど、4校ぐらい今入ってるんですかね、美祢に。

だから、もう少しですね、その辺も含めたアンケートをどういうふうに行っていくかっていうのは、やっぱりぜひお願いをしたいと。

○委員長（村田弘司君） これは要望でいいですか。

○委員（竹岡昌治君） はい。

○委員長（村田弘司君） しっかり受け止めていただきたいと思います。ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） よろしいですか。そしたら、この辺で質疑は——今の御意見を伺うことは終わりたいと思います。

これからもですね、我々の特別委員会、この美祢線、美祢市の美祢がつく非常に重要な陰を結ぶ路線である美祢線、今休線してますけれども、これを失って、手をこまねいておったんでは、我々の市の人口減のスピードが大きくなるし、若い人たちも、ここにもう住みづらくなるということもよく認識を皆さんで持って。

今随分中島課長、要望しましたけどね、別に責めてるわけじゃなしに、議会サイドと執行部が同じ方向を向いて手をつないで、この美祢市の振興のために頑張りましょうというエールとして受け取っていただいて、どうぞしっかりやっていただきたいというふうに思います。

それでは、これからもですね、美祢線災害復旧対策室、それから検討部会の動向を注視しながら、調査・研究を特別委員会でやっていきたいというふうに思っております。

本日の調査はこれまでとします。これにて本委員会を閉会します。お疲れさまでした。

午前10時28分開会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和6年10月3日

JR美祢線災害復旧対策調査特別委員長